

## 成人の日に

年 組 番 名前

---

今年4月から、成人年齢が18歳に引き下げられます。これからは、高校3年生になると、選挙権だけでなく、成人としての権利と義務が生じます。不透明感の強いといわれる時代に、若者たちが何を考え、どう行動することが求められているのか。社説を読んでみましょう。

- ①就職活動で問われる「ガクチカ」とは、何を略した言葉ですか。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- ②「若者の保守化」と同じ意味で使われている語句を、二つ抜き出しましょう。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- ③岸田文雄政権が掲げた「分厚い中間層の復活」について、社説はどんなように見えると書いていますか。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- ④歴史社会学者の小熊英二さんは著書で、「デモで何が変わるのか」という問いに対し、何と言い返した人の例を挙げていますか。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- ⑤あなたが今、よりよい社会にしていくために「変えねばならない」と考えることは、何ですか。理由も書きましょう。

# 社説

2022.1.10

## 成人の日に

# 変化の芽にエールを送る

(2022年1月10日朝刊・論面(社説))

「うっせえ うっせえ うっせえ  
えわー」

動画投稿サイトのユーチューブで昨年、若い世代に浸透したヒップホップ曲「うっせえわ」。その激しいサビのフレーズを思い出す。

成人の日のきょう、大人になる若者に先を行く世代が言えることは何だろう。人生訓めいた話を受け入れられる気がしない。

不透明感の強い時代だ。人口減少と社会保障費の増大で、今後の社会は確実に厳しさを増す。借金だけは膨らみ続けている。

あのフレーズが向けられると思うのは、そんな先行きしか語れない大人の、後ろめたさだろうか。

### 大人社会への順応

10代の女性シンガー「Ado」さんがネット上に放った曲だ。その歌詞は、大人社会に対する不満

やいら立ち、それでも順応するしかない境遇での自嘲がこもっているように感じられる。

「あなたが思うより健康です」と、一方的に決められた健全性に強く反発する。「酒が空いたグラスあればすぐに注ぎなさい」。そんな社会人マナーをあげつらい、「はあ？」と突き放す。

だが現実の多くの若者は、本音を代弁したと評されるこの歌詞ほど勇ましくはないようだ。

コロナ禍のいま、社会に出ようとする若者が置かれた状況は厳しい。生活でなければどうしようもない、まずは溶けこまねば。そんな重圧からか、涙ぐましい努力が積み重ねられる。

就職活動では決まって「ガクチカ」(学生時代に力を入れたこと)が問われる。留学もサークルもボランティアも自粛では、経験が乏

しくならざるを得ない。限られた条件でも地道に勉強に励んだことなどを伝え、「使える人材」だとアピールに力を入れねばならない。そんな状況だ。

政治離れと云うが今年4月から、民法の改正で成人年齢が18歳に引き下げられる。なぜ早めるのか。答えられる人はあまりいないだろう。

引き下げを提言した法制審議会が報告書をまとめたのは2009年。それはこう主張する。

早期に社会・経済におけるさまざまな責任を伴った体験をさせ、社会の構成員として重要な役割を果たさせることは、個人および社会に大きな活力をもたらす。

社会に役立つよう「早く責任を自覚させる」と言うのだ。どこか動員の色彩を帯びる。

多くの人と出会い、刺激を受け、少しずつ将来を探る。そうあるべき2年をコロナに見舞われた世代には、酷ではないか。

投票率は低迷し、若者の政治離れが指摘されて久しい。政治は君たちの将来を左右するものだから関心を持って。そう呼びかけても心には響かないだろう。

②若者の保守化も指摘されている。現実主義と言いつつ換える見方もある。まずは現状維持、というのが多くの本音ではないか。

いま若い世代に改めて知ってほしいのは、大人も何も分かっていないという現実だ。溶けこもうとする社会も、政治も、さしたる展望は持てず迷いの中にある。

典型が現在の岸田文雄政権だろう。「成長」を目指すと言いつつみせるが、頼みのデジタル化は世界の流れに取り残されないよう後

追いついていないに過ぎない。掲げた「分厚い中間層の復活」は具体策に欠け、日本社会がまだ若かった昭和の高度経済成長に思いをさせるノスタルジーの域を出ていないように見える。

デモができる社会1月のこの時期になると、思い出すことがある。6年前、大学生ら15人が亡くなった軽井沢町でのスキーツアーバス事故だ。

亡くなった一人、田原寛さんは当時19歳。事故に遭った時、ある本を持っていた。歴史社会学者の小熊英二さんの著書「社会を変えろ」だ。

書かれたのは福島第一原発事故翌年の2012年。脱原発を求めデモが盛んなころだった。第一章を、原発の社会的背景に関する考察に当てている。

読んで改めて思うのは、事故をタブー視して無責任な体制で進められた原子力産業は、次世代に負担を先送りする社会の本質を体現しているということだ。

④デモで何が変わるのか、結局は変わっていないではないか。そんな声もある。小熊さんはこの本で「デモができる社会が作れる」と言い返した人の例を挙げ、「ある意味で至言」と説いた。

世界では、温暖化対策にもの申す若者が増えている。目の前のことに精いっぱいそれどころではないという反応も多いだろう。

けれど現状維持に未来が見えないなら、変えねばならない。既存の発想に覚えた違和感と変化の芽かもしれない。その意味を考え続け、いつか声を上げてほしい。

環境に合わせるより、変えていく人。大人の一人がいま送ることのできるエールである。

## あすへの選択

## 成人の日に

### 解答例

年 組 番 名前

今年4月から、成人年齢が18歳に引き下げられます。これからは、高校3年生になると、選挙権だけでなく、成人としての権利と義務が生じます。不透明感の強いといわれる時代に、若者たちが何を考え、どう行動することが求められているのか。社説を読んでみましょう。

①就職活動で問われる「ガクチカ」とは、何を略した言葉ですか。

【解答】 学生時代に力を入れたこと

②「若者の保守化」と同じ意味で使われている語句を、二つ抜き出しましょう。

【解答】 現実主義 現状維持

③岸田文雄政権が掲げた「分厚い中間層の復活」について、社説はどんなように見えると書いていますか。

【解答】 日本社会がまだ若かった昭和の高度経済成長に思いをはせるノスタルジーの域を出ていない

④歴史社会学者の小熊英二さんは著書で、「デモで何が変わるのか」という問いに対し、何と言いつ返した人の例を挙げていますか。

【解答】 デモができる社会が作れる

⑤あなたが今、よりよい社会にしていくために「変えねばならない」と考えることは、何ですか。理由も書きましょう。

【解答】 自由記述